

記者資料提供（平成 27 年 2 月 10 日）

（公財）先端医療振興財団

経営企画部企画課

安藤、清水 TEL:078-306-0806

E-mail : media@fbri.org

先端医療センターにおける 鼓膜穿孔患者を対象とした鼓膜再生療法の治験の実施について

公益財団法人先端医療振興財団は、神戸医療産業都市の中核機関として、基礎医学研究の成果をいち早く臨床応用に結びつけるトランスレーショナルリサーチの推進をミッションとし、先進的な技術開発に取り組んでいます。

この度、鼓膜穿孔^{*1}の患者を対象とした医師主導治験を開始しましたので報告します。本療法は、従来の手術的治療のように皮膚を切開したり、鼓膜の材料になる組織を採取することなく、薬剤などにより鼓膜の再生を促進させて鼓膜を閉鎖させる方法です。これまで当センターで実施した臨床研究および他院における臨床使用では、本治験と同様の療法を実施し、鼓膜の閉鎖および聴力の改善が確認されており、いずれにおいても 8 割～9 割の高い閉鎖率が示されました。本治験では、治験薬をノーベルファーマ株式会社^{*2}より提供を受け、鼓膜穿孔患者に用いて、治験薬の有効性・安全性を検証する目的の臨床試験です。先端医療センターと京都大学医学部附属病院および慶應義塾大学病院とで共同で実施いたします。つきましては、下記のとおり記者説明会を行いますのでお集まりくださるようお願いいたします。

記

日 時：平成 27 年 2 月 12 日（木） 14：00～

場 所：（公財）先端医療振興財団 先端医療センター 臨床棟 4 階大会議室

説明者：金丸 眞一（先端医療センター病院 耳鼻いんこう科 鼓膜再生担当部長）

<<取材に対するお問い合わせ先>>

（公財）先端医療振興財団 経営企画部企画課

安藤、清水 TEL:078-306-0806 E-mail : media@fbri.org

^{こまくせんこう}
*1 鼓膜穿孔：鼓膜は中耳炎や外傷などいろいろな原因で破れることがあります。多くの場合は自然に治りますが、場合により孔が開いたままふさがらないことがあります。これを鼓膜穿孔といいます。鼓膜の孔が非常に小さい場合は、聴力にはほとんど影響ありませんが、ある程度以上の大きさになると聞こえが悪くなったり、不明瞭になります。また、入浴、水泳など日常生活にも不便をきたします。従来の方法は耳の後ろを約 2～5cm 程度切開し、鼓膜の材料となる組織を採取して手術を行うため、通常 1 日～数週間程度の入院治療が必要でしたが、今回の治験では耳の中から行うため、通常日帰りでの手術が可能です。

*2 ノーベルファーマ (<http://www.nobelpharma.co.jp/>) は、2003 年創業以来、アンメット・メディカル・ニーズの高い医薬品の開発を目指して、オーファンドラッグ（希少疾患を治療する医薬品）、適応外使用医薬品、小児用医薬品等のテーマに取り組んでいます。2014 年末現在、既に 11 品目の新薬の製造販売承認を取得し、上市しています。